

作成年月日：2021年3月30日

ご報告

久留米大学では、下記研究のために、受診時に患者さんから取得された診療情報等を活用させていただいていますが、本来2018年3月に公開すべき下記の患者様への大切なご案内が、事務手続きの不振で遅れてしまいましたこととお詫び申し上げます。下記のご案内に該当する方で、ご意見やご不明な点などがございましたら、下記問い合わせまでご連絡ください。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法後の危機的再発に関連する因子に関する後方視的研究

【研究代表者（試料・情報の管理責任者）】内科学講座消化器内科部門 助教 岡村 修祐

【今回の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：西暦2008年1月から2015年12月までの間
- 2) 受診科：久留米大学病院消化器内科 または 複数科にわたるもの
- 3) 対象疾患名：肝細胞癌と診断された方

【診療情報等の項目】

診療情報等：血液検査結果（全血算、肝機能）、CT/MRI/超音波画像（腫瘍径、腫瘍数、腫瘍部位、造影パターン）、診療録（ラジオ波焼灼療法時の治療内容）

【研究目的】

経皮的ラジオ波焼灼療法は外科的な肝切除と同じく肝細胞癌の根治的治療の一つとされていますが、治療後短期間で、肝内多発転移・脈管侵襲・肝外転移などの予後不良な再発をきたす患者さんが、ごく少数ですが存在します。治療前にそのような危機的再発の予測をすることができるか、もしくは回避することが可能かどうか、関連する因子を検索します。

【研究（利用）期間】久留米大学倫理委員会承認後から西暦2022年12月まで

【利益相反に関する事項】

本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません

【問い合わせ先】

（本学）研究責任者：久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 助教 岡村 修祐

電話：0942-35-7561（直通）（対応可能時間 平日9:00～17:00）

臨床研究センター 電話：0942-65-3749（直通）（対応可能時間 平日9:00～16:00）

研究番号 17284